

AYA支援チームのモデル作成に関する研究

研究分担者 石田 裕二 静岡県立静岡がんセンター小児科部長

研究要旨

院内 AYA 世代診療の支援チームについて：2016 年度に、小児科/整形外科/AYA 世代病棟を新設し、AYA 世代診療体制の強化を図った。臓器別診療が、がん専門医療の近代化の大きな流れでも有り、こうした専門性がそれぞれの臓器別診療でも重要である。AYA 世代という年齢による区分は、こうした専門性の区分とは異なる特徴が有り、こうした相反する点について、特にケアを中心としたリンクナース制度の整備、スクリーニングシステムの改善をはかったチーム医療を作成している。静岡県全体の取り組みとしても、県庁、小児がん拠点病院としての静岡こども病院、浜松医科大学、県立総合病院統制腎がん拠点病院との連携会議を開始して、AYA 世代診療への総合的対策を検討開始している。

A. 研究目的

AYA支援チームのモデル作成に関する研究

B. 研究方法

実態調査、チーム作成、改善過程自体が、本研究の意義と考え、研究を進めている。

（倫理面への配慮）

院内/院外の倫理指針に十分に配慮して実施している。

C. 研究結果

①実態把握として、15-29歳の入院患者動向を把握した。

2010年1月-2016年6月 入院患者数 15-30歳 582名の入院、平均年齢24歳、中央値24歳
女性 338名 男性 244名
年間約100名程度の新規患者が発生している実態を把握した。

②病院主催のAYA世代の若者達の討論の場の提供当施設および静岡こども病院でのがん診療経験者達を集めた、座談会形式の集会を行った。

医療関係者を含め、100名規模の集まりとなった。また、参加者にアンケートを行ったので、これの集計し次回のこうした集まりに求められることについて検討を加えたい。

③病院内の診療体制の強化として、2018 年度から AYA 世代支援としてのリンクナース

制度を稼働して、ケースの検討、スクリーニング結果から実際に支援に結びつけるチーム医療を開始した。

E. 結論

AYA世代、診療のチーム医療体制作成 院内外、地域連携、行政との連携は重要である。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1. 論文発表 該当なし
2. 学会発表

Quality of End-of-Life Care in Adolescents and Young Adults with Cancer in Japan MASCC 2018 in Vienna

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得 該当なし
2. 実用新案登録 該当なし
3. その他 特記事項無し